

第3回定例会

3名の議員が理事者の考えを質しました。

・一般質問①

一般質問



安田一彦議員

特別支援体制について

町長の考え、計画は！

町長へ平成25年開設に向け障がい児の
通所支援施設を計画している。

発達障がい、特別支援を必要とする
児童への支援体制について

【質問】

発達障がい・特別支援を必要とする児童の数はどれくらいいるのか。現状の認識や対策の議論から、どう支援するのか。支援が必要と思われる児童の親が支援を必要ないとしている実情があるのかどうか。ある場合、町はどの向き合い方なのか。

【答弁】（町長）

支援が必要と判定された児童数は乳幼児7人、小学生9人、中学生5人の計21人で、そのほかに支援が必要と思われる児童が39人、合計で60人と認識しています。

保健福祉課、保育所、子育て支援センター、教育委員会などで構成した子育て支援調整会議を平成22年12月庁内に設置し、次世代の育成支援行

動計画の運営管理や子育て支援に関する問題を協議しており、8月には発達障がい児の通所支援について協議検討を行っております。

親との向き合い方については、乳幼児は保健師や子育て支援センター、保育所と連携し乳幼児健診や保育の中で発達障がいのことや早期支援が必要なることを理解してもらおうよう指導している。発達障がいの判定を受けた子どもは、小児科や療育機関、児童相談所にて支援を受けている。

【答弁】（教育長）

学校の状況は、小中学校合わせ、発達障がいの判定を受け特別支援学級に通う児童が5学級、10人となっております。親が支援を必要としない実情には、一、必要と認識してい

るが普通学級に就学させた。一、発達障がいの度合いを軽く判断し成長とともに治ると自己判断している。一、発達障がいを持っていることを認識していない。この三つの場合があり、対策として親子子どもの状況を理解してもらおうことしかなく、就学時に相談するが親の気持ちが一番優先されるのでそれに従うことになる。子どもが社会に出て困らないようにするのが学校の役割ですので、粘り強く話し合っていくことが必要と考えます。

【質問】

発達障がいは早期に適切な教育、指導を受けることで改善されるこの認識でよいですか。

【答弁】（保健福祉課長）

早い段階で支援することで少しでも改善することがあると思う。発達障がいは病気として単純に治すということではなく、将来的にその地域で暮

らしていただけるようなサークルが必要になると思います。

【質問】

支援が必要と思われる児童にどのような対策が最善か、問題をどう取り扱うか、どう改善すべきか、5歳児健診を実施する考えはいつか伺います。

【答弁】（町長）

例えば保育所では、言葉や情緒障がいや母子通園センターへ20人程度通園しており、特に支援が必要な乳幼児には保育士を増員し支援しています。経過観察が必要な乳幼児には発達外来への健診奨励などの支援を行っております。今後子育て支援センター、保育所や保健師の連携を図り、母子通園センターなど関係機関の連携を密にし支援することが必要と考えています。なお、5歳児健診は実施する考えはありません。

【質問】

発達障がい・特別支援体制事業について、他に町長の考え、計画があればお示し下さい。

【答弁】（町長）

障がい児の通所支援施設の開設を計画している。平成25年4月の開設に向け準備をしたいと考えております。

第3回定例会

・一般質問②



但木早苗議員

「住んでみたいまちづくり」の構想は！

町長、4つの約束、21の項目を掲げ実現を目指していく。

2期目に向けた町政執行方針を受けて

【質問】
2期目に向け町政執行方針が出され、4つの約束と21項目にわたる目標が示されましたが、今後のまちづくりについて次の点をお伺いします。

①スローガンである「住んでみたい・住み続けたいまちづくり」特に「住んでみたいまちづくり」「住んでいいまちづくり」の構想があるのか。

空き家バンクという制度はあるが、まだまだ認知度が低いようですが、そのようなことも検討するのはいかがでしょうか。

【答弁】(町長)

自立のまちづくりを選択したこともありませんが、私は自信を持って、佐呂間町は活気あふれ小きくてもきりりと夢輝くまちづくりができたと思っております。これを受け4

つの約束、21の項目を掲げ、重ねて継続事業も含めこの実現のためスローガンのまちづくりを目指すものです。

空き家バンクについてもデータをそろえながら、すぐ発信できるものをつくっていきたく考えています。

【質問】

②公設民営化を想定する医療施設としての機能の充実を図るとあるが、厚生連との関係も含め今後の医療体制についてお伺いします。

【答弁】(町長)

この一年半、嫌というほど地域医療、医師確保の難しさを実感した。そんな折、町とゆかりのある先生から医療法人等を紹介され、現在交渉のテーブルにしているところです。公設民営化を想定する医療施設については、厚生連

クリニック、小田医院と全く切り離れた町立病院が絶対不可欠な状況にあります。そのときには指定管理者制度などを考えています。

まだまだ予断を許さない部分がありますが、全力を挙げ対処していきたく考えています。

【質問】

③1期目の公約であった学童保育の実現は、親たちの要望のもと児童館で実施され、今年度からは児童クラブとして1、3年生を対象に運営されていますが、町長は学童保育のありか姿はこれで終わりと考えているのか。

放課後も安心して過ごせる場所は健康児であっても障がい児の子どもであっても保障されるものと考えています。町長の目指す学童保育についてお伺いします。

【答弁】(町長)

現在の状況を見ても現状のままでは対応がとれるのではと思っております。学童保育、ランドセル通所が始まってまだ2年半、ことはこれ以上の増加はないので、25年度障がい児の通所支援施設の開設と合わせて十分検討させていただきながら、児童クラブ運営に努めていきたいと考えています。



「新規創造支援・企業誘致による雇用の創出を図るとはどのような内容なのか」職員の意識改革を進め、戦う政策集団を育成するとありますが、どのようなことなのかの質問は、詳細なる答弁を頂きましたが、紙面の都合上、内容は割愛いたします。

第3回定例会

・一般質問③



三田真美議員

農水商連携と

6次産業の取り組みについて

【質問】

町長の2期目の目標に商業活性化と地場特産物を利用した商品開発の支援、PRを図るとありますが、具体的にどう取り組むのか伺います。

【答弁】(町長)

本町は食糧の原材料の供給基地としての役割は担っているが、生産物を加工し販売する分野は遅れています。

しかし、新たな製品開発の取り組みも広がっており、実績も徐々に伸ばしてはいるが更なる開発も必要とおっており、地場産品振興奨励補助事業の規則に基づき、助成金など支援しています。

関係団体の連携やオホーツク圏地域食品加工技術セン

佐呂間ブランド開発のための

行政の支援は！

町長、公的な部分が必要になった時は

支援していきたい。

【質問】

特産物に付加価値をつけるためのアイディアをホームページを通じて一般の町民から声をいただければいいでしょうか。

【答弁】(経済課長)

町の特産物はホームページでは直接PRしていませんがリンクできるようにしたいと思います。

町民からの意見の募集については検討させていただきます。

佐呂間高校への

給食支援について

【質問】

佐呂間高校の生徒の多くの保護者は1次産業に従事している家庭が多く、高校への給

食を望む声があります。

町PTA連合会は小・中・高が加盟しており、高校存続を含めた支援として給食の提供が必要ではないでしょうか。

【答弁】(町長)

給食センターで作ることが出来るのは600食で、現在はへき地保育所も含めて約500食を提供しています。

高校への給食は、高校側の受け入れ体制や様々な問題点もあることから、この2期目4年間の間に実現に向け努力していきたいと思えます。

